

原性を支持する結果となった。さらに、本種のホロタイプ産地である横浜市円海山では、「夕刻、草地(?)のスイーピングで得られた」という情報のほか(野村・新井, 2008), 高知県四万十川の採集記録では, 17時前後ないしは18時以降のカーネット(トラック・トラップ)によって得られており(野村, 2023), 夕刻に草原を飛翔することが推測されていたが, 本記録においても19時前のスイーピングで得られており, 夕刻に飛翔する生態が示唆された。

また, 本種はこれまで河川敷等の比較的広い草原地帯で得られることが多かったが, 土浦市穴塚大池のような里山の中の, 比較的小規模な湿地帯にも生息していることが新たな知見として明らかになった。

以上のことから, 良好な草原環境が残されていれば, 必ずしも大規模な草原でなくても生息できることが考えられた。

本記録により, 本種は少なくとも茨城県以西の分布が示唆された(図5)。今後, さらに北方または東方地域での分布状況について, 明らかにする必要がある。

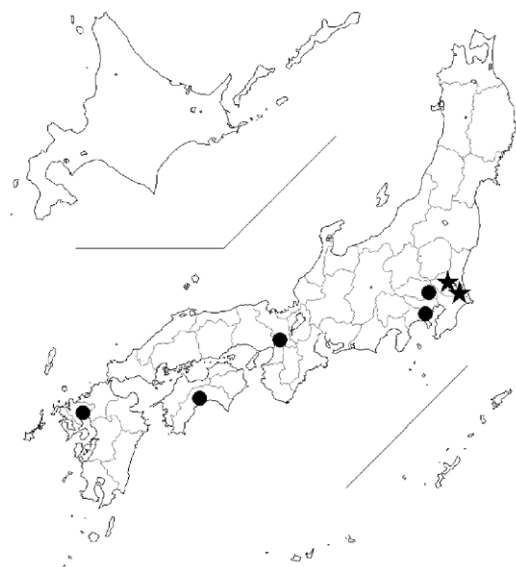


図5. ヤツメアリヅカムシ分布図。●: 既産地; ★: 新産地。



図4. 茨城県稲敷市産ヤツメアリヅカムシ。スケール: 0.5 mm。

## 引用文献

- Nomura, S., 2010. A taxonomical revision of Asian genera and species of the tribe Dimerini (Coleoptera, Staphylinidae, Pselaphinae). Japanese Journal of Systematic Entomology, Matsuyama, 16: 221–247.
- 野村周平, 2010. 石垣島で中瀬式ライトトラップ(NLT)によって採集されたアリヅカムシ. 甲虫ニュース, (172): 1–6.
- 野村周平, 2015. ヤツメアリヅカムシ(ハネカクシ科アリヅカムシ亜科)の四国および九州からの記録. さやばねニューシリーズ, (49): 6–9.
- 野村周平・新井志保, 2008. アリヅカムシの採集と生息環境2. 埼玉県庄和町での採集例. 月刊むし, (451): 5–8.
- 野村周平・伊藤健夫, 2015. 京都府におけるヤツメアリヅカムシ(ハネカクシ科アリヅカムシ亜科)の記録. さやばねニューシリーズ, (20): 6–7.

(札 周平 つくば市みどりの中央 73–5  
サンハイツ 101)

(金子道夫 つくば市千現 1–14–19)

(野村周平 つくば市天久保 4–1–1)

国立科学博物館動物研究部)

## 【短報】シラカンバの樹洞に生息していたミヤマオオハナムグリの幼虫

コガネムシ科ハナムグリ亜科のミヤマオオハナムグリ *Protaetia lugubris insperata* (Lewis, 1879) は, 我が国では北海道から九州にかけて分布し(酒井, 2012), 北海道では普通種である(堀, 2017)。ミヤマオオハナムグリの幼虫は樹洞内の腐朽部を餌とし(飯嶋ら, 2007), 幼虫越冬で1年1化である(酒井, 2012)。しかし, 野外での幼虫生態に関する知見は乏しい(飯嶋ら, 2007)。我々は, シラカンバ *Betula platyphylla Sukaczew* の樹洞内に生息していたミヤマオオハナムグリの幼虫を採集し, 飼育して羽化成虫を得たので報告する。

採集地は, 北海道帯広市中心部の都市公園である緑ヶ丘公園(標高53 m, 面積 $50.5 \times 10^4 \text{ m}^2$ )である。2022年12月8日に, 緑ヶ丘公園内の街路樹のシラカンバの枯木を伐採した。伐採されたシラカンバの地上高約5 mの位置には, 北北西に向けて開口する樹洞(入口の短径約45 mm)が存在した(図1A)。公園を利用する市民によると, 樹洞では, エゾモモンガ *Pteromys volans orii* (Kuroda), コウモリ類, カラ類の利用が観察されていたとのことであった。このシラカンバの枯木は, 伐採された後, 公園内の屋外に68日間放置された。

2023年2月14日にシラカンバを縦方向に二分割した(図1B)。その際, 樹洞の中にハナムグリ類の

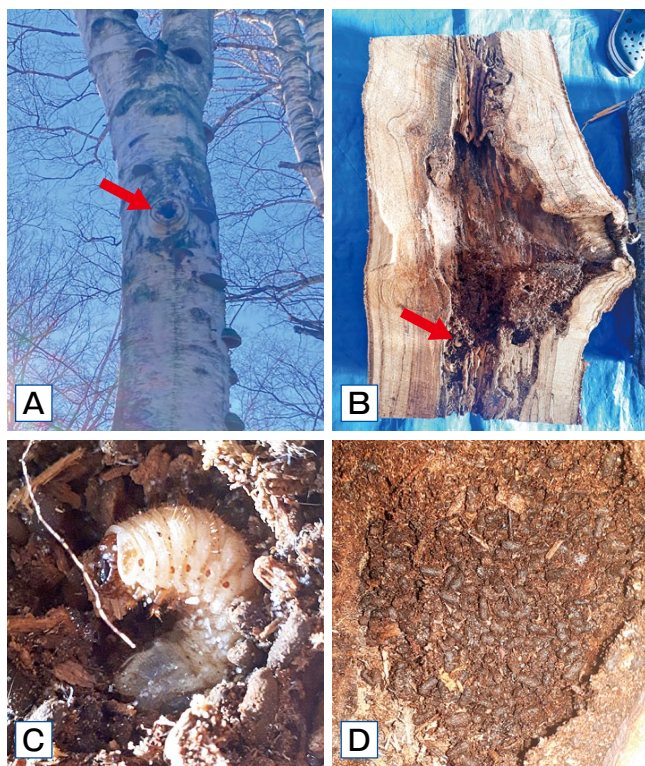


図1. シラカンバの枯木の樹洞とミヤマオオハナムグリ幼虫。A, シラカンバの枯木(矢印は樹洞)；B, 樹洞の縦断面(矢印はミヤマオオハナムグリ幼虫)；C, 樹洞内のミヤマオオハナムグリ幼虫；D, 樹洞内のミヤマオオハナムグリ幼虫の糞。

幼虫2個体が生息していたため、採集した(図1C)。このシラカンバの枯木は、芯材腐朽のため根本から幹材の芯が腐っていた(図1B)。樹洞の中にはハナムグリ類のもとと推測される大量の糞、および木くずが腐葉土状に堆積していた(図1D)。

幼虫の飼育に際しては、ペットボトルの上部1/4を切除した飼育容器を作製した。採集された幼虫は、樹洞の中に堆積していた木くずの腐植層およびハナムグリ類の糞と共にこの飼育容器の中に入れ、ラップで容器上部をふさいで飼育した。この飼育容器を、2023年2月14日～5月頃までは10℃前後の冷暗所に置き、それ以降は外気温とほぼ同じ気温の屋内に置いた。羽化成虫は酢酸エチルで殺虫し、乾燥標本として保存した。

飼育中の幼虫は、飼育容器内の腐植層内深くにいたため、蛹化時期については確認できなかったが、1個体は2023年6月22日に、別の1個体は同年7月7日に羽化した。羽化した2個体の成虫は、外部形態の特徴からミヤマオオハナムグリと同定された(図2)。

ミヤマオオハナムグリの幼虫は、ブナ *Fagus*



図2. ミヤマオオハナムグリの成虫、背面(スケールの目盛りは1mm)。

*crenata* Blume, イヌブナ *Fagus japonica* Maxim., ミズナラ *Quercus crispula* Blume var. *crispula* (以上, ブナ科), ヒメシャラ *Stewartia monadelpha* Siebold et Zucc. (ツバキ科), シナノキ *Tilia japonica* (Miq.) Simonk. (アオイ科), イタヤカエデ *Acer pictum* Thunb. subsp. *mono* (Maxim.) H. Ohashi, オオイタヤメイゲツ *Acer shirasawanum* Koidz. (以上, ムクロジ科)の樹洞に生息することが記録されていた(秋田, 2004; 飯嶋ら, 2007)。

本研究により、ミヤマオオハナムグリの幼虫がシラカンバ(カバノキ科)の樹洞に生息することが初めて記録された。なお、ミヤマオオハナムグリの幼虫がカバノキ科から発生すること自体が初記録であり、飯嶋ら(2007)で指摘されていたようにミヤマオオハナムグリは発生木として複数科の樹種を利用することが確認された。なお、幼虫採集の際、樹洞内に大量の糞が存在していたことから(図1D)、ミヤマオオハナムグリの幼虫は長期間にわたって樹洞内に生息していたと推測される。また、本報告は、これまでに知られうる地上高が最も高い樹洞からのミヤマオオハナムグリ幼虫の採集例となる。

文献をお送りいただいた秋田勝己氏に深謝する。

#### 引用文献

- 秋田勝己, 2004. 三重県のミヤマオオハナムグリとムラサキツヤハナムグリ. ひらくら, 48 (3): 47-48.  
堀 繁久, 2017. 増補改訂版 探そう! ほっかいどうの虫. 159 pp. 北海道新聞社, 札幌.  
飯嶋一浩・岸 真・松本昇也, 2007. 東丹沢地域ブナ帯における樹洞性ハナムグリ類. pp. 241-245. 丹沢大山総合調査団(編), 丹沢大山総合調査学術報告書. 472 pp, 平岡環境科学研究所, 相模原.

酒井 香, 2012. ハナムグリ亜科. pp. 308–320. 岡島秀治・荒谷邦雄 (監修), 日本産コガネムシ上科標準図鑑. 444 pp. 学研教育出版, 東京.

- (山内健生 080-8555 帯広市稲田町西 2 線 11 番地  
帯広畜産大学昆虫学研究室)  
(大熊 勳 080-0846 帯広市字緑ヶ丘 2 番地  
みどりと花のセンター)  
(菊池隼人 903-0213 中頭郡西原町字千原 1 番地  
琉球大学動物生態学研究室)

### 【短報】東京都におけるミズスマシの近年の記録

ミズスマシ *Gyrinus japonicus* Sharp, 1873 は “Hiogo” および “Nagasaki” から得られた標本をもとに記載されたミズスマシで, 国内からは北海道, 本州, 四国, 九州から分布情報があり (北海道は疑問符付きの不確かな情報), 国外からは朝鮮半島, 中国 (北部), ロシア極東部から知られる (中島ら, 2020; 吉富, 2022).

本種は日本産ミズスマシ属としては最普通種であったが (佐藤, 1977, 1985; 中島ら, 2020), 近年では全国的な衰退傾向が顕著で, 環境省 (2020) の最新のレッドリストには絶滅危惧 II 類として掲載さ



図 1. 東京都産ミズスマシ♂とその交尾器 (背面, スケールは 1 mm).

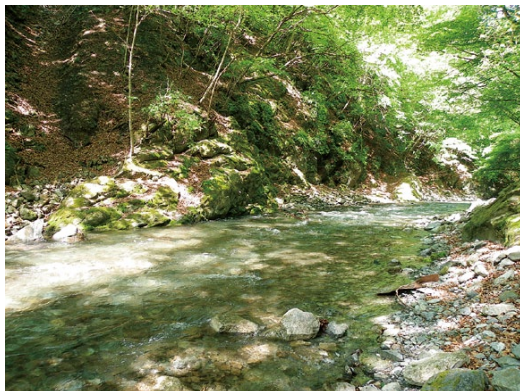


図 2. ミズスマシが採集された環境 (奥多摩町日原川, 2011 年 5 月 14 日撮影).

れ, 北は北海道から南は鹿児島県まで, 最新版のレッドリスト, レッドデータブックに掲載されている場合が少なくない.

東京都における本種の生息情報としては, 東京都から 2023 年に公表されたレッドデータブックに絶滅危惧 IA 類として掲載され, 解説されているものの (苅部, 2023), 具体的なデータ, 現存する証拠標本をとまなう確かな記録は存在していないようである. 最近, 100 年以上前に都内で採集され, 東京大学総合研究博物館に保管されていたミズスマシ属の標本複数が検討されたが, 同定結果は本種ではなく, 近似種コミズスマシ *Gyrinus curtus* Motchulsky, 1866 であったことが報告された (苅部・矢後, 2023).

筆者は, 東京都においてミズスマシを採集しているので報告する.

1♂, 西多摩郡奥多摩町日原川倉沢出合 (標高約 500 m), 14. V. 2011, 筆者採集, 保管.

同定は, 筆者による雄交尾器形態を含めた検討による.

確認地点は山地の溪流で, 岸辺の石の間の緩流部で水面を遊泳している 1 個体を得た. 周囲には, 溪流沿いの小規模な水たまりなどは見られたが, ため池などは見当たらなかった.

本種を含むミズスマシ属は, 止水のほかに流水からも得られ, 主たる生息環境である池沼のほか, 砂防ダム上下のよどみや溪流緩流部, その周辺のライトトラップで確認されることもある. ただし, 今回は得られたのはわずかに 1 個体で, 移動中に一時的にいたものが偶発的に採集された可能性があり, このような溪流部が本種の世代交代の場となり得るかは疑問がある. 近隣の埼玉県, 山梨県の状況の報告をみても (岩田ら, 2020), 池沼や河川でも淵などの滞留域を含んでいることが本種生息の条件になると考えられるため, 今回報告した確認地は, 本種の健全な生息環境とは考えにくい.

末筆ながら, 同定に関して助言をくださった吉富博之博士に深謝する.

### 引用文献

- 岩田泰幸・富樫和孝・岩田朋文, 2020. 埼玉県におけるミズスマシ (コウチュウ目, ミズスマシ科) の衰退要因と山梨県における分布状況. 埼玉県立自然の博物館研究報告, 14: 17–24.  
苅部治紀, 2023. ミズスマシ. p. 637. 東京都レッドデータブック 2023–東京都の保護上重要な野生生物種 (本土部) 解説版 – 879 pp., 東京都.  
苅部治紀・矢後勝也, 2023. 100 年以上前の東京都のミズスマ